

アジア選手権（韓国 2008）の  
アシスタントコントローラ  
寺嶋一樹。舞台裏を振り返る。

2008年7月25-30日  
アジア選手権大会（韓国ソウル市近郊）

## きっかけ

2006年、ソウルに駐在していた頃、韓国オリエンテリング連盟（KOF）の方から AsOC&APOC を韓国に誘致しようとしていると相談を受けた。今までの APOC や WOC2005 の話しをしながら、もし韓国での開催が決まれば、自分なりに韓国のオリエンテリングに貢献したいと漠然と考えていた。2007年秋、そんな縁もあって、アシスタントコントローラのチャンスを受けた。猛烈に頑張る必要があった。なにせ大会まで10ヶ月しか残されていなかった。

## 地図の遅れと組織の混乱

2007年12月に訪韓。ロングのトレインを視察、承認。アップダウンはあるが割りと良い。コースを工夫すれば面白くなりそうだ。1次調査の進捗は芳しくない。2月にチェコからプロマッパーが2名やってきた。韓国側での1次調査は完了せず、ロング地図を原図が

ら調査をする羽目になったが、さすがプロ、素晴らしい地図が作成されてきた。しかしその他の競技の地図は3月末になっても、韓国側から OCAD データが得られなかった。

地図調査が大幅に遅れている現状を全日本大会の際、視察で大阪を訪問されたド・ヨンシム KOF 会長に報告したところ、大変驚かれた。彼女は順調としか聞いていなかったようだ。

4月に入って KOF 内部で深刻な内部対立が発生した。おそらくは地図準備の遅延と関連して、地図責任者の交代指示があったようだ。それに反発する形で、今まで準備を進めてきたメンバーの多くが組織を去った。その多くはソウル周辺のオリエンティアであったため、大会運営への影響が懸念された。

新たに地図責任者となった安さんは、ミドルとリレートレインの変更を我々に打診。5月連休時の訪韓の際、ミドルのみトレインを変更することを認めた。旧地図の精度がよく、大会に間に合わせることができる可能性が高いことがその理由だった。大会まで2ヵ月半。地図の遅れやその他の準備状況は、危機的な状況に陥っていた。それでも樂觀的に考えられたのは、韓国人の気質～緻密な準備は苦手だが、猛烈な馬力

で最後はぱっちり帳尻を合わせる～を理解していたからか。事実そうだった。

## 強力なサポートを得て急ピッチ

そんな中で、心強いサポートが。村越さんが、ロングとリレーのコース設定者となることが決まった。韓国側のスキルアップを兼ねて、4月下旬にソウルでコース設定セミナーを開催した。この大会は韓国にとっても力をつけるチャンスなのだ。

計算センター・ITのスペシャリストの場君も運営に加わってくれることになった。彼のソフトをハンゲル化。大会後も韓国では EMIT を使ってスムーズに運営されるだろう。

そしてチャ・ユンソンさん。彼女は、東大 OLK 出身で、現在ソウルで通訳目指して大学院に通っている。5月にテクニカル・ダイレクターに大抜擢。以降、運営準備が劇的に動き始めた。

日本での大会申込みやツアーの設定については韓国在住経験のある小山俊洋さん、日本旅行の小林さんが精力的に動いてくれた。韓国観光公社のサポートもあり、日本人のエントリーも目標だった100名を超えた。中国や香港からも多数のエントリーがあったとの連絡もあり、準備に熱がこもってきた。



韓国の運営者の皆さんと IOF のヒューカメロン氏



アジア選手権日本選手団。今回の AsOC/APOC は多数の日本人が参加したと同時に多数の日本人が大会を支えた。

## さあ、あと1ヶ月で大会本番

6月下旬、村越さんが訪韓。ロングのコースがほぼ固まった。続いて6月末に尾上さん（SEA：シニアイベントアドバイザー）と筆者が訪韓、スプリント、ミドルのチェック。最大の難点は、リレーだった。韓国オリエンテリング協会は遅れを取り戻すために別の外国人マッパーを雇ったのだが、これが大はずれ。ISOM（国際オリエンテリング地図基準）から逸脱した作図。等高線間隔は3mか？と思うほど勝手に等高線が増やされている！沢の表現が独特だったり、走行可能性も緑が多すぎたりと多くの問題が。結局、尾上さんが「これはSEAとは別だからね」といいながら、原図を見ながら等高線を5mに描きなおし、できる限りISOM（国際オリエンテリング地図基準）に近づける作業をされた。本当に頭が下がる作業だった。

そして7月にはいって、Genesys Mapping 山川さんに、地図・コースについて最終の調製とレイアウトをお願いする。山川さんも徹夜を何度も重ねて、7月20日にリレーを除きようやく地図が完成した。

並行して、ブリテン3の作業やスタートリスト作成も遅くなったがなんとかできた。渉外の不備などもあったようだが、車さんはじめ韓国オリエンテリング協会メンバーが開催のために頑張ってくれた。

## 大会本番 ~ 力を尽くして

私たちが現地に着くと、もうそこは国際大会の雰囲気が漂っていた。ロシアや香港チームは既に到着しトレーニングを始めていた。チェコで開催されたトレイル WOC から小山太朗さんもボランティア役員として到着、大戦力に。またかつてソウルで一緒にオリエンテリングをしていたオーストラリア人の Lyon 氏が突然、駆けつけてくれた。まさに救世主。彼はほぼ毎日トレイルに入り、設置とチェックを行ってくれた。

韓国人スタッフと協力して、地図準備、エミット準備、設置などが急ピッチで進む。大会プログラムやゼッケンも受付前日深夜に完成、皆で徹夜で受付キットを仕上げるなど、綱渡り状態を皆で楽しみながら運営。最大の懸念はリレー地図。村越さんが7月24日夜に到着、25日と26日豪雨の中で地図調査とテープ巻き。地図の修正とコース設定を同時に行う。27日から作図と地図印刷。リレー地図が劇的に生まれ変わり、競技を行うめどが立った。

韓国人と日本人が時には議論を交わしながらも協力し合って、より良い運営を目指した。運営上の不都合はいたるところに出てしまったが、参加者の協力と理解もあり、競技が全て成立したのは素直に嬉しいことだった。精神的にも体力的にも厳しい1週間だったが、参加者の笑顔が支えになった。アジア選手権で日本が勝ち続けたことも嬉しかった。特に日本女子がリレーで

優勝し、日の丸が上がり、君が代が流れたときには目頭が熱くなった。

全てを終えて、バンケットで突然流された映像。楽しそうに走る選手と、晴れやかな表彰者の笑顔。今までの苦勞が吹っ飛んだ瞬間だった。韓国人の役員と抱き合い、成功を喜んだ。家族の協力もありがたかった。心が折れそうになったときに大きな支えになった。



アジア選手権リレー男子  
前に行く中国とこれを追う日本  
レース舞台の裏には、それを支える人の努力があった。

## 終わりに

アジア選手権はこれから素晴らしい大会になっていこう。韓国が強くなければアジアの発展もないだろう。バンケットで韓国代表の文選手と約束をした。この大会でせっかいいい地図ができたから一緒にトレーニングをしよう。この大切な縁、簡単に終わらせるわけにはいかない。韓国がもう少し強くなれるように、チャレンジできないかと考えている。

（寺嶋一樹）